



漫画ミュージアムの役割、今後のあり方で意見を交換する出席者  
＝石ノ森萬画館

## 漫画関連施設連携シンポジウム

# 取り組み、課題を討論

石ノ森 萬画館 関係者、研修者が集結

漫画をテーマにした文化施設の役割やあり方を考える「マンガミュージアム連携シンポジウム」が11月30日、石巻市の石ノ森萬画館で開かれた。

漫画関連ミュージアム研究会が主催した。は現在国内に50以上あり、日本の漫画やアニメが海外で高い評価を受けている。シンポジウムは、漫画施設の課題を整理し、漫画文化を豊かに育成するミュージアム確立に役立てようと、研究者によるマンガミュージアム研究会が主催した。テーマは「東北のマンガミュージアム―地域におけるポピュラー文化の役割」。県内外の漫画ミュージアム関係者ら約30人が出席した。

石ノ森萬画館指定管理者の街づくりまなぼうの木村仁徳括部長、登米市

の石ノ森章太郎ふるさと記念館の熊合義行館長、横手市増田まんが美術館の大石卓市教委主査がそれぞれ、各館開設の経緯、現在の取り組みを交えて報告した。

この後、京都精華大学際マンガ研究センター研究員でマンガミュージアム研究会の伊藤遊さんから、関西地区の大学に所属する研究者4人の質問に、3施設の発表者が答えるなどして討論が行われた。

質問は各館の目的、担うべき人材や後継者に対する考え、漫画を扱う施設としての考え、建築など多岐にわたった。

勤務する人材では各館から「予算が限られていく中で、収蔵や企画展開催を考えると作家との長い付き合いや関係が大事で、担当職員が2〜3年で変わるのはいくかなどについて考えが語られた。

漫画関連の施設関係者を集めたシンポジウムは石巻では初めての開催。研究者の伊藤さんは「漫画文化施設は横のつながりが少ないので、今回を機に連携したい。集まった各館の目的、違いや現況も分かり大きな意義があった。今後も漫画をいかに街の文化とつなげていくかアイデアを出し合っていきたい」と話した。

## 頑張ろう石巻

3・11東日本大震災

況にあることが課題として伝えられた。

研究者側、館関係者双方から、ミュージアムは漫画の新たな楽しみ方を提案し、街の活性化へ寄与することや、漫画が持つエネルギーをどう今後進化させていくかなどについて考えが語られた。